

東 蕨 紫 短 大 納 身 節 子 ○ 清 水 智 子 田 代 桂 子

目的 前報(55b)で、夏期の味覚テスト方法実証のために、食事・尿中のナトリウム量と味覚テスト結果との相関を調査・研究した結果、季節差・地域差を調査する必要性を感じた。今回は冬期に、前回と同様、食事・尿中のナトリウム量の測定を行ない、その比較を行った。また、冬期については、盛岡市の女子学生についても同調査を行ない、その地域差の比較を行った。

方法 対象：夏期は北九州市男子学生20人、北九州市女子学生23人、合計43人。冬期は北九州市男子学生20人、北九州市女子学生19人、盛岡市女子学生20人、合計59人。

- a) 食事中ナトリウム量測定：1日分の食事を食塩濃度計(全研社 Model、NA-05EX)、及び炎光光度計(日立205D型)により測定した。
- b) 尿中ナトリウム量測定：24時間尿を採取し、食塩濃度計及び炎光光度計により測定した。あわせて尿中カリウム・クロール・クレアチニン量も測定した。
- c) 味覚テスト：前報と同一の方法による。

結果 夏期・冬期ともに北九州市においては、男子は女子よりも尿中・食事中ナトリウム測定値が高い。また、食事・尿中ナトリウム量・味覚テスト結果について、夏期・冬期及び北九州市・盛岡市での相関の有無を検討した。